当たり前の大切さ

新年度があけ一ヶ月が過ぎました。新入園児のお友達も少しずつですが、園の環境に慣れてきている様子があります。季節も変わり過ごしやすい日もあれば、夏のように暑い日もあります。環境に十分に配慮しながら、活動範囲も少しずつ広げ、直接体験の場を大切にしていきたいと考えています。

園だよりのこのコラムのページでは毎月の担当者が子ども達の様子や職員自身の経験談、学びなどを発信していきます。今月は谷本が担当します。

私には小学生の息子がいます。随分と手が離れてきて成長を感じる部分と、自分の意思がしっかりとあり、ケンカまではいきませんが、私と意見がぶつかることもあります。「なんでこんなに（息子は）怒るんだろう？」「どうしたら私のこのイライラした気持ちは小さくなるんだろう」と考えることもあります。

そんな中、ちょうど春休みに入ったころから息子が入院することになりました。もともと、皮膚がとても弱く定期的に皮膚科に通院しており、今回はスキンケア入院をしようと病院の先生と話が進みました。
どうして、ここまで皮膚が弱くなっているのか原因もわからない為、一人部屋での入院生活がスタートしました。主人も私も仕事をしながら交代で夕方から８時まで面会に行き、少しでも彼がさみしくないようにと関わってきました。

「息子の入院」は、私にいろいろな気づきを与えてくれました。

- 今まで当たり前に子どもがいての生活が夫婦二人になったことの、なんとなくの寂しさ
  （会話のほとんどは息子の話でした。）
- 面会時間が終わる８時近くになると、「一人が怖い」とシクシク涙する息子。小児病棟のため、赤ちゃんも入院しており、いろいろな通知音が響いています。車の音も救急車の音も夜一人で聴くと、彼にとってはとても怖いものだったようです。家では強がっていたり、私と言い争いになったりすることもあります。でも、当たり前かもしれませんがまだまだ、気持ちの面のサポートが必要だということや一緒にいることの大切さを改めて感じました。
- 午前中は TV や iPad を見るのではなく、学校の宿題やワークをすることを約束していました。
  看護師さんのお話によると、その約束をちゃんと守って生活をしていたとのこと。
- 退院の前日、息子から「お母さん、明日お菓子買ってきてほしいんだけど」
  私は入院中にお菓子を食べられなかったので、自分の好きなお菓子を食べたいのかなと思い「何がいいの？」と聴くと、「お世話になった看護師さんたちに『ありがとうございました』ってあげたいから、いっぱい入っているのがいい」との返事。いつの間にかこんなことまで気が付けるようになったのかと成長を感じました。

一緒に生活をしていると、「出来て当たり前」と考えてしまうことも離れてみると、息子の言葉や仕草に成長を感じ、自分自身の息子への関りを振りかえる機会になりました。そして改めて家族で一緒に過ごすことの大切さを感じました。朝になると「おはよう」と挨拶をして家族で顔を合わせ、朝ごはんを食べる事。夕方になると「ただいま～」とまた家族と顔を合わせる事。「もう早く寝ないと！」と言いながらも会話が絶えない夜の忙しい時間。自分の身近にある「当たり前の生活」は繰り返していると忘れてしまいます。生活の小さな当たり前に感謝し、日々を大切にすごしていきたいと感じることができた息子の入院生活でした。